



寺入の溜(天下野町)

水の思い出 ⑤③

子どものころは、この辺でも川や田んぼが凍ってスケートができた。自分の家の近くでは、山田川が凍ってスケートをした思い出がある。山の際など、陽当たりのよくない田んぼもその頃はよく凍ってスケートをさせてもらえた。川スケートは学校から危険なので禁止となっていた。授業で田んぼスケートをしていた所は多かったはず。田んぼの持ち主はあまりいい顔をしないことも多かったが、学校で了解をもらい自分たちで水を張ったりしてリンクを造った。

冬になったら借りる田んぼは、稲刈りの前から、刈り残された株ができるだけ低くなるように（その方がスケートリンクをつくり易い）お願いに行った。秋には田んぼから水を抜いてしまうのが普通。そこへ、近くの用水から水をくみ入れる。凍った上にさらに水をかけて凍らせる。重ねれば重ねるほどいい氷になるので、夕方になるとその田んぼに水を張りにいく当番が決まっていた。

当時、すでにスケート靴は持っていたが、刃は自分で研いだものだった。包丁のようにまっすぐ研ぐのではなく、S字に研ぐといいと聞き、手づくりの台を作り、刃の上を砥石をゆらして研いだがそれでよく滑れたのかどうかは覚えていない。

自分の学区の他にも、寺入の溜などにスケートの遠征に友人たちとって、地元の子もたちに、石を投げられて追い返されたりしたアウェーの思い出もある。思い出の田んぼや溜は、今どこも草ぼうぼうになってしまっている。温暖化のせい、冬に外で遊ばなくなったせい、しばらく田んぼのリンクは見ていない。

(会沢 栄一)

常陸太田で2を探そう

歴史の宝庫常陸太田市。この街を歩くと「～は茨城県で2番目に古い」とか「～は県で2番目に多いらしいよ」というおはなしをよく伺います。1番ではなく2番が多いのです。オリンピックなら銀メダル。運動会ならくやしさとうれしさが同居する2等賞。もう一踏ん張りすれば1等賞に手が届く希望がある2等賞。
常陸太田で2を探してきました。 (五十嵐 弘)

2

番目に古い企業「川又薬局」

川又薬局さんは西暦1600年（慶長5年）創業現在の当主 川又慎さんで17代目。現在も営業している企業としては茨城県で2番目に古い企業です。西暦1600年というと、戦国時代の末期です。1600年に現在の地で「坂本屋」の屋号で薬の製造・販売と荒物屋を始めたそうです。現当主の祖父15代目までは、当主は「重郎衛門」を名乗っていたそうです。「17代も続いた家なので、栄えた時代もあればそうでない時代もあり……」中でも、寛政年間には大変な苦勞をしたそうです。

水戸藩の命令により福島県の相馬から焼き物職人を招き、私財を投じて、後に「桃源焼」（記録に残る茨城県の焼き物の中では最古です。）と呼ばれる焼き物の生産を始めました。江戸の販売所で売り出されていたことも寛政13年（1801年）の御用留に残っているそうです。水戸藩の支援も受けていたそうですが、うまくゆかず坂本屋は衰退したそうです。「何とか細々と続けて、後の子孫が再び坂本屋川又薬局として復興し、現在にいたっています。」（現在も営業している、県内で一番古い企業は笠間市の須藤本家株式会社（清酒製造）創業年1141年です。）



2

番目にソフトボール公認審判員が多い「常陸太田市」

常陸太田市にはソフトボールの公認審判員が131人います。これは、水戸市の133人に次いで県内で2番目に多い人数です（平成21年度登録者数）。常陸太田市ソフトボール協会理事の楊箸勝己さんに詳しくお話を伺ってきました。元々ソフトボールが盛んな土地ではありませんでしたが、公認審判員が昔から多かったわけではありませんでした。数年前に市外の方から「常陸太田のソフトボール協会は少し閉鎖的じゃないですか？」と指摘されたのが一つのきっかけでした。たしかに、他のソフトボール協会との交流もあまり無く、市内のチームだけを対象とした大会しか運営していませんでした。「これじゃいかん」とみんなで話し合い、協会に加盟している市内のチームに、1～2名の審判有資格者を置いてほしいとお願いし、又、運営する大会では帯同審判員制を導入しました。これは、大会参加チームから審判を出すという、他の地域ではあまり導入されていない方法です。審判資格取得のための講習会等への参加により、個人レベルで市外のソフトボール愛好者との交流が盛んになり、又、ソフトボールの知識も深まりました。協会としても積極的に大きな大会の誘致を行い始め、平成22年には日本女子リーグの試合を白羽スポーツ広場で行いました。今年、国民体育大会関東ブロック予選が常陸太田で開催されることになりました。成年女子の試合には、北京オリンピックで大活躍した上野投手が、群馬県代表で出場するのではと楽しみにしています。

2

番目に大きい古墳「梵天山古墳」

梵天山古墳について郷土資料館でお話を伺って来ました。島町にある県指定史跡の前方後円墳「梵天山古墳」は、全長が160mもあり県内で2番目に大きい古墳です。従来は、全長151mで古墳時代中期の5世紀中頃に造られ、久慈国造船瀬足尼の墓と考えられていましたが、後円部に比べ前方部が低い古墳時代前期の特徴的な形をしており、周辺から見つかっている土器から見て、それよりも古い古墳時代前期の4世紀中頃から終わり頃に造られたと考えられています。同じ台地上には直径100mの円墳に直径30mの円墳がついている高山塚古墳、北東に約650m離れた小島町には全長100mの前方後円墳の星神社古墳があり、1kmの範囲内に100m級の古墳が3基もあるとても珍しい地域です。（県内で一番大きい古墳は石岡市の舟塚山古墳全長186mです。ちなみに、全国では60～70番目くらいとみられます。）



2

番目に古い旅館「銚子屋旅館」

市内西一町、太田郵便局の前、銚子屋旅館の根本治さんにお話を伺ってきました。銚子屋旅館さんは創業年が西暦1789年（寛政元年）で現在も営業している旅館としては県内で2番目に古いと言われています。現在の当主が根本治さん、6代目です。

■名前の由来は？
「御先祖様が千葉の銚子から天秤棒かついで来たんだ、いや、銚子は縁起が良い名前だから屋号にしたんだとか聞きましたが、本当のことは良く解らないのですよ」「私の父、5代目までは銚子屋の当主は根本勘兵衛を代々襲名していましたが、私は改名する時世でもないので改名しませんでした。」

■どうしたらこんなに永く家業を続けられるのでしょうか？
「特別に優秀な人が跡を継がなかったからかな。いやね、御先祖様には優秀な人もいて、旅館業は継がないで学者になった人もいたようだが、旅館業を継いだ人は御先祖様の言いつけを良く聞いて、真面目にこつこつと旅館業を続けてきた。それが良かったんじゃないかな」

■根本治さんには、他にも色々なエピソードを伺ってきました。
「祖父が幼いころ、太田の町を荒らしていた天狗党を二本松藩の藩士が捕まえて、取り調べは、銚子屋で行なわれました。その天狗党を責める声が恐ろしかったと、祖父から聞きました。」又、桜田門外の変の首謀者関鉄之介が、太子で捕らえられ江戸送りにされる際、銚子屋で一泊した記録も残っているそうです。息子さんの知り合いが所有していた明治25年発行の「全国商工人名録」には、銚子屋が掲載されていたそうです。又、戦時中は学童疎開のため、東京都に丸ごと貸していました。墨田第二国民学校の三年生が疎開してきたそうです。「戦争が終わって東京都との賃貸契約は無くなったんだが、家賃収入で暮らして楽しかったもんだから、旅館業を再開しないでいたんだよ。そうしていたら、ある日警察に『いつまでも営業を再開しないなら、旅館業の許可を取り消すぞ！』と叱られて、あわてて営業を再開したんだよ。」と最後に笑顔ではなしていただきました。（県内で一番古い旅館業はつくば市の株式会社筑波山江戸屋 創業1628年です。）



創業時からの建物（向かって左が6代目根本治さん。右が5代目根本勘兵衛さん）



現在の建物



明治時代の看板（てうしやと書かれている）

2

番目に高い山「妙見山」

里川町にある妙見山は山体が茨城県内にある山としては、2番目に高い山です。一般的には1番高い山が八溝山（1,022m）2番目が高笹山（921.5m）3番目が栄蔵山（881.6m）4番目が妙見山（879.9m）です。しかし、八溝山と栄蔵山は他県にまたがっている山です。山体が茨城県内に在る山で一番高いのは高萩市の栄蔵山です。そして、2番目に高いのが妙見山なのです。ちなみに筑波山は男体山が871m。女体山が877mです。

2

番目に早いレジ袋有料化「常陸太田市」

現在、スーパーマーケット等でのレジ袋有料化はごく普通に行われていますが、常陸太田市での有料化は茨城県で2番目に早かったそうです。平成20年5月30日ゴミゼロの日を実施されました。県内で1番早かったのは平成20年2月1日に実施されたひたちなか市です。ちなみに、3番目は常陸太田市から2日遅れの平成20年6月1日から実施した笠間市です。

※今回のファンズでは常陸太田の「2」を特集いたしました。さて、今回のファンズ1～8頁まで「2」は全部で何個あるでしょうか？ 答えは8頁。（二、II等は除外します。「2」のみです。）

茨城県立太田第二高等学校

『2』を探して西山公園近く、太田二高へうかがいました。
現在、生徒数337名の男女共学校、その歴史は大正時代にさかのぼります。

県北部に当時の女子中等教育機関がなく何とか設置を願う中、大正5年4月、太田町立太田実科高等女学校として開設されました。良妻賢母を養成する事が目的とされ、その後、久慈郡太田実科高等女学校、茨城県太田実科高等女学校と名を

改めながら、昭和2年県立太田高等女学校、昭和23年県立太田女子高等学校から、その翌年に県立太田第二高等学校となり男女共学がスタート、今年で創立95周年を迎えるそうです。
(後藤 百合子)



野球部の写真（軟式野球部県大会準優勝 昭和28年）

始まりが女子教育だったためか、女子校のイメージが強いかもしれませんが、昭和20年代には、男子軟式野球部が活躍していた記録もありその足跡をたどることができます。

「おもいで部屋」

太田二高には、学校の歴史が一目でわかる「おもいで部屋」という展示室があります。創立80周年記念の時に作られ、そこには様々な時代を過ごしてきた思い出の品や、制服が年代順に並んでいます。一般公開される文化祭などでご覧いただくことができるそうです。



当時の校章をあしらったバックル



冬服 夏服 (昭和2年～16年)



標準服 (戦時中配給昭和17年～20年)



冬服 (昭和27年～現在)



夏服 (昭和27年～昭和46年)



夏服 (昭和47年～昭和61年)



夏服 (昭和62年～平成18年)



夏服 (平成19年～現在)

年号	大正5年	大正8年	大正14年	昭和2年	昭和17年	昭和23年	昭和24年	昭和27年	昭和47年	昭和62年	平成19年
学校名	太田町立太田実科高等女学校	太田町立太田実科高等女学校	茨城県久慈郡太田実科高等女学校	茨城県太田実科高等女学校	茨城県立太田高等女学校	茨城県立太田女子高等学校	茨城県立太田女子高等学校	茨城県立太田女子高等学校	茨城県立太田第二高等学校	茨城県立太田第二高等学校	茨城県立太田第二高等学校

常陸太田の今昔

NO.4 常陸太田駅（山下町）

明治32年、太田鑄銭座跡地に太田鉄道が敷設され、太田停車場ができると山下町は、太田町（明治14年



『太田勝景誌』太田停車場景

町制)の玄関口となっていった。太田停車場はその後、水戸鉄道を経て、昭和2年日本国有鉄道となり現在の常陸太田駅の名称となった。昭和4年の常北電鉄線（日立電鉄）が開通すると、駅を起点にしたバスの運行も盛況になった。

戦時中（昭和20年）、艦載機（グラマン）の機銃掃射により始発の蒸気機関車が銃撃され、通勤客は構内の防空壕に避難した。その機銃掃射のレールを貫通した弾痕が構内にしばらく残っていた。木炭自動車は駅前を走っていた時代である。

駅の南方面には工場が並び、駅構内には引込み線（高倉線）もあり、材木専用のホーム、大型の起重機のある貨物専用のホームや屋根の高い倉庫が軒を並べていた。貨物の積み下ろしの何人もの人が貨物構内



駅頭（平成19年）

で働き、荷馬車やトラックで混雑していた。駅前には百貨店もあり、パチンコ屋が街頭に音楽を奏で、広場では盆踊りが行われた。宇都宮行の国鉄バスも通い、上野行の準急も運行した。
今、日立電鉄線もなくなり、JR常陸太田駅周辺は、

「まちづくり計画」によって、往時を秘めて大きく変わろうとしている。平成23年3月26日には新駅のオープニングイベントやセレモニーが行なわれる。昭和4年陸軍特別大演習昭和天皇行幸駅として改築された駅舎も一抹のいとおしさを残してその姿を消す。社会世相を反映しながら貨客終着駅としての常陸太田駅周辺は、時代の盛衰の様相で変貌していった。出征兵に日の丸を振り、引揚者を駅頭に迎えた少年時代、私の遊び場は「停車場」だった。（石川 誠）

JR水郡線常陸太田駅リニューアル記念 「常陸太田駅周辺いま・むかし」写真展開催

- 主催 常陸太田写真を楽しむ会
- 期日 平成23年3月24日(木)～3月31日(木) 午前10時～午後5時
- 場所 常陸太田市民交流センター大会講堂
- 内容 常陸太田駅前風景、水郡線（常陸太田線）約70点
- 問い合わせ 市役所企画課 72-3111（内線・314）

梨古木の ルーツを訪ねて

常陸太田 樹木と人の物語 ②
平成 23 年の秋、常陸太田市で「巨樹フォーラム」が開催されます。樹木はその姿の中に、育った土地の風土を内包し、巨樹は悠久の時の流れさえ感じさせます。フォレストでは巨樹ではないけど、人に愛された樹木をご紹介します。樹木と人が紡いできた物語です。

小目町の梨園山田敏雄さん宅には立派な「梨樹百年」の礎碑が建っています。それによると明治 10 年（1877）年に山田吉郎平氏が久慈川氾濫による災害回避から梨を植えたのが栽培のはじまりで、常陸太田初の梨が植えられて 100 有余年だそうです。



■左の写真は現在ある梨で最も古い木で品種は「小^こ雪^{ゆき}常^{じょう}花^{かう}太^{たい}平^{へい}早^{わせ}生^{あか}赤^{むつ}奥^{あか}六^{むつ}」樹齢：約 100 年 幹回り：130 cm の老木です。



■高齢のため枝は剪定されていて、木にサルノコシカケキノコが生え、いかにも古木を表しています。



(高橋 靖浩)

広告

百姓田ちゃんの
たべもの日誌①



『マメな話』

ガラガラガラ・シャンシャンシャン...昔ながらの千歯コキを踏みまわしながら今年収穫した豆の枝を一本一本脱穀する。茶色く枯れた枝の中から、まるで打出の小槌のように青い豆がはじけ出てくる。太くて良い枝には100粒くらいついていそうだし、余りないものもある。どれだけの豆が今年はとれるか、半分ワクワク、横で山積みの枝にうんざりしながらも、ひたすら脱穀作業を進める。豆がすべてはじけたら、今度は粗いふるいにかけて、枝やサヤの屑をとり除く。何回か繰り返して大体豆だけになってきたら、最後は唐箕という道具で、風を送って細かいゴミや枝を飛ばす。そうするとキラキラの豆のみとなり、あとは目と手で虫食いや潰れた豆をとり除いて、やっときれいなお豆さんが顔をそろえてくれる。

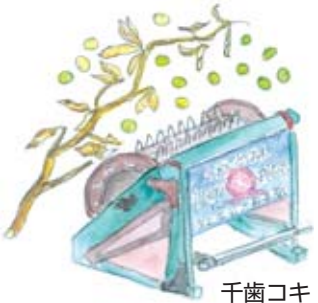
“マメな人”とも形容するように、豆を食べるためには、自らもマメにならなくてはいけない事が、身にしみてわかる。我が家では、大豆・黒豆・青大

豆を少しずつ作っている。冬の農作業がひと段落するこの時期、豆仕事が残っていると落ち着かない。どうか1月中にはこの仕事を終わりたい。そうすれば2月には味噌を作り、しばらくまた美味しい豆生活を楽しめる。そう思ってねじり鉢巻きでやっている。

豆仕事が終わっても母ちゃんの食卓に豆料理が並ぶには、それなりの段取りと、下準備が必要で、なかなか使いきれずに虫に食われてしまうこともある。そんな中で、今これならと思っている簡単豆ごはんをご紹介します。

普通にご飯を炊くときに、さっと洗った豆を好きな量だけ入れて、塩少々を入れてスイッチポン。これはその季節にとれた新豆ならば、ほとんど水に浸さなくてOK。ごはんと一緒にちょうど良く柔らかかに炊ける。古くなってきたら少し浸水する時間をとってから。黒豆でも青大豆でも、その豆の風味が出ておにぎりにしても好評。これなら手軽に毎日豆を食べられますね。

(木の里農園 布施 美木)



千歯コキ

子育て奮闘記

踊るママパラダイス 53

大丈夫でしょうか…

長女スミレの進学が決まり一安心しています。

当たり前のように滑り止めを考えていましたが、第二志望の出願直前になり「あの学校には行かない。第一志望が駄目なら浪人するから。」と言い出した。親としてどう答えて良いものが、考えてみました。人生80年以上のこの時代。彼女の人生は4分の1にも達していないと思うと、そのわずが1年立ち止まったところで問題は無いように思えました。娘の決心が固いのならば、そしてそれが可能ならば、私は「いいよ。」と応えることとしました。安全圏と言える確証は皆無でしたから無事合格したときは自分の受験の時よりも嬉しかったです。

思えば両親が私の受験に際してじたばたしているのを見た憶えはありません。当たり前のように受験日に送り出し、合格発表の時の私のように飛び上がるほど喜んでいる風には見えませんでした。でも、受験間際のお正月に「勝ち票だよ。」と食べるように差し出した母と、小学校から高校卒業までの12年間、どんな悪天候でも心配したことのない父が、雪の降った受験日に学校まで送ってくれたのを、今回娘の受験で思い出し静かな愛を感じました。そして、娘の決心を後押ししてやれた私に二人が生きていたら何と言ってくれたらとうと胸が熱くなりました。

4月からスミレは家を出て新しいスタートラインに立ちます。心配と寂しさとして、彼女の明るい未来に春はまた、ざわざわとした季節になります。遠くにも見守ってあげたいです。

頑張れ、子ども達。—— わいわいネット 織田 裕子 ——



リレーエッセイ 「思い出の絵本」 『やまんばのにしき』

～52～
(天神林町 南 由美)

「民話」というと、最近の子どもたちには、あまり馴染みのないものになってしまったような気がします。残念ながら我が子も、その独特な語り口調や、古い生活様式を理解するのが、なかなか難しいようなのです。

紹介する「やまんばのにしき」は、秋田の伝説をもとに松谷みよ子さんが書かれたものです。「やまんば」は、恐ろしい、人を食べる、乱暴、と悪いイメージがありますが、この本は最後に、みんなが幸せになる、心温まるお話で、やまんばのイメージも変わります。

『ちょうふくやまのやまんばが こどもうんだで もちついてこう』突然嵐が吹き荒れて、叫び声が響き渡ります。あまりの恐ろしさに村人はもちをつき、暴れん坊でいつもいばっている若者と、道案内のばあさまに、山へ運んでもらいます。途中で、恐ろしくなった若者は逃げ帰ってしまい、結局ばあさまがやまんばに届けます。やまんばは喜び、素敵なお土産をくれるのです。

いつの世にもいるのでしょうか。普段は乱暴でいばっているのに、いざという時まったく役に立たない若者と、知恵と勇気を持ち合わせた高齢者。幸も不幸も分かち合う村人の優しさや、やまんばの村人への思いが、なんともほっこり気持ちの良いお話です。私はこの本で、子どもながらも小さな社会勉強をしたように思います。「民話」の世界への足掛かりとして、読んでいただけたらと思います。
(次回は 花房町 井坂 美佳さん)



ほつとひといき

ロウバイ (ロウバイ科)



ウメと同じころに咲き、香りも近く花の色が蜜蝋(はちみつ)に似ているためこの名がつけられた。臘梅または蠟梅と書く。

中国原産で日本には江戸時代初期に渡来し、観賞用に植えられている。早春、葉に先立って枝の節に密接してつく。内側が暗褐色、外側が黄色の花はロウバイ。ロウバイより花が大きく内側も黄色のものはソシンロウバイ(素心臘梅)という。5～6月に咲く暗赤褐色のクロバナロウバイ(アメリカロウバイ)は北米原産で明治中期に渡来した。

中国では、ウメ、スイセン、ツバキとともに雪中の四花とされている。また、中国の黄庭堅の詩に「金梅(ロウバイ)春寒をとざし...」とある。日本ではロウバイは別名カラウメトウウメという。

臘梅や枝まばらなる時雨ぞら 龍之介
臘梅のつやを映しぬ薄氷 増田龍雨

(桐原 弘)

ちよつとひといき

「あさみや」

東海村の電車がある雑貨屋さん、「あさみや」の常陸太田店です。磯部町の349号バイパス沿いにある店舗の中には様々な商品が並んでいます。カントリー雑貨はもちろん、店舗の雰囲気に合わせて



たアジア雑貨、洋服や布まで。お客さんも子どもからお年寄りまでというのもうなずけます。値段も手ごろなものが多いのも嬉しいところ。3日に1回は新商品が入荷するので、いつ訪れても新しい発見があります。これからは春物や新生活へ向けた商品が入荷予定。あなたのお気に入りの一品を探してみませんか？
(萩谷 浩司)

常陸太田市磯部町1000-4 Tel 0294-33-6004

<http://www.asamiya.jp>

営業時間 10:00～18:00

定休日 月曜日

～スロータウン鯨ヶ丘ひなまつり～ 2つの展示会

今年はずいぶん

うさぎの花嫁人形展示会



期間 3月3日(木)～4月5日(火)
会場 旧ヤナゼン(東二町)

ひなまつりにあわせて、市内の主婦グループが創作したうさぎの花嫁人形が展示されます。100体もの着物姿の人形行列は壮観です！

陶水会作品展 ～土と炎からうまれたお雛さまたち～



期間 4月1日(金)～4月6日(水)
10:00～16:00

会場 Cafe結+1(東一町)

問い合わせ 岡部任男(76-3542)

水府・こしらえ館で陶芸を学ぶ仲間たちの初めての作品展。おひなさま中心に作品がならびます。